

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第55回放送の概要 (2012年9月29日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なかちゃん (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
一ノ瀬 悟

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) ビッセル神戸の森岡亮太です。血液はまだ人工的に作ることが出来ず、長い期間保存することも出来ません。皆さんの献血が尊い命を救います。共に行こう献血へ。日本赤十字社。

(CM) 「7つ 8つ 9つ とう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

## 1. オープニング

明日の中秋の名月は、お天気が悪く見えないかも知れません。秋の七草は目で見て楽しむ花で、女郎花 (おみなえし)、薄 (すすき)、桔梗 (ききょう)、撫子 (なでしこ)、藤袴 (ふじばかま)、葛 (くず)、萩 (はぎ) で、「おすきなふくは」と覚えます。



## 2. ゲストコーナー (1): 王 良子さん (64 陽会)、岡野雅昭さん (64 陽会)、山口昭彦さん (64 陽会)

兵庫高校は自由な (自由すぎる) 校風があり、イベントがあれば必ず乱れます。一番乱れるのが修学旅行です。前年までは観光旅行であったが、自分たちの学年から昼間ぐったり疲れるようにスキー旅行に行きました。行先は万座高原ロッジで、スキーの経験者は少ないためリフトに乗れない生徒が多かった。一人乗ると二人目がこけてリフトが止まるので到着地に行くまで結構時間がかかった。リフトに乗

って降りられず、そのまま帰ってくる生徒もいた。王さんはリフトから降りた時動けずにいると、その後の生徒が王さんにつかまり、その後の生徒が更につかまるといことが続き、団子状態になり、リフトを止めて引き出すのに時間がかかってしまった。山頂に着くとニュートンの法則で戻っていた。460人の生徒が神戸駅から夜行でスキーに行った。高校時代ほどしてはいけないことをしたいと思う。男子生徒の周りは白い煙がたっていたり、生徒が自分の家の酒屋から持ってきたお酒を、大きなポストンバックに入れて神戸駅で抱えていた。当時の先生は全て黙認していた。夜は枕が飛ぶのではなく、煙が飛んでいた。また押し入れに入ってかくれんぼをし、出れなくなったりして遊んでいた。

文化祭では針金細工でスヌーピーを作り、ビニール傘に絵を描いたりしたものを近所の子供などに販売したがとてもよく売れた。その売り上げはお酒に変わった。何かあると飲み会をしていた。あこちゃんとの70陽会は急性アルコール中毒で新聞沙汰になった。

王さんは学年で上位成績だったので、先生から女医を目指すように言われたが、DNAが面白いと思っていたので、結局神戸大学理学部に進み、生物を専攻した。DNAは当時学問の世界の話で、今のように製薬会社などの研究者として求められている時代ではなかった。当時理学部からの就職は困難であったこと、解剖で生き物を殺す自分に耐えられなくなったこと、就職する場合は教師になりたかったため、3年生の時に教育学部初等教育科に転部した。卒業後は教師の道に進まず、当時あこがれであったトップ企業の日本航空の地上職に就職した。教職に就くには、神戸市では日本国籍を有する者という資格条件があったが、国籍条項の多い企業の中で、JALは、半官半民ではあったが3年前に国籍条項を撤廃していた。最初の仕事は伊丹空港のチェックインカウンターでの接客を担当した。多くの有名人に出会ったが一番有名な人は、1985年にダイアナ妃にお会い出来たことである。

### 3. ミュージックコーナ: ムーンリバー (アンディ・ウィリアムス)

9月25日に84歳で膀胱がんで亡くなられた、アンディ・ウィリアムスさんのムーンリバーをお送り致します。映画「ティファニーで朝食を」の中でヘップバーンが歌っていたが、アンディ・ウィリアムスさんのバージョンが有名です。

### 4. ゲストコーナ (2)

王さんは1988年に日本国籍を取得し帰化した。手続きは非常に難しかった。王さんは日本で生まれた華僑で永住権を持っていた。母親が日本人のため、また永住権と帰化では権利関係が大きく異なるため、日本国籍を持ちたいと思い申請した。まず中国から国籍離脱の証明をとり、法務局に提出し1年間何の連絡もなく無国籍状態で待っていた。その間法律に触れることがあると駄目なので、駐車違反、スピード違反をしないよう車の運転も1年間やめていた。

今日本で帰化出来ているのは、毎年10,000人で、中国人は3200人、韓国・朝鮮が5600人である。2010年にJALを退職後、中国語は中華同文学校で学んでいたが、ビジネスに通用する中国語を改めて勉強した。教員免許を持っていたので、英語の非常勤講師の登録のため神戸市教育委員会に行ったところ、中国語がしゃべれるなら英語よりもっと活躍してほしいとあると言われ、中国語を使える機会があるということで興味を覚えた。今、小中学校には沢山の外国人がいる。日本語のわからない中国人が日本に来て授業を受けている。その子供をサポートしてほしいと言われた。30年前に取得した資格が行かせると思い、始めることにした。授業通訳は生徒と自分のあいている時間に、週に1~2回中学に行き通訳している。理科であればMgは何か、酸化は何かということについて通訳している。中華同文学校では受験にあわせるため、理科や数学は日本語を使っていた。理科は得意分野ではあるが、中国語の専門用語は良く分からないので辞書を片手に通訳している。王さんは日本で学び中国語のニュースを聞くくらいなので、中国は新語が多いし、子供たちの話す巻き舌の早い言葉には戸惑うことがある。社会科では鎌倉時代が出てくると、中国の年表を書いて時代の対比をさせることで理解させるようにしている。また地理も難しく日本地図で神戸は何処か聞いても生徒は東京を指す。通訳側も苦勞するが、一番苦勞しているのは生徒本人で、苦勞して覚えようと努力している。中国から日本語がわからない状

態で来日しても年齢相当の学年に編入される。神戸市は外国人に対する教育が充実していて、生田中学では15時半から17時まで、JSL (Japanese as a second language) が神戸市の中学校に通う外国人に日本語を教えている。此处では標準的な言葉を教えている。しかし子供は順応性があるので「ヤバイ」という言葉は1か月も経つと覚え、「ヤバイ」にはいい意味と悪い意味があると言うと「バッチリ」という答えが返ってくる。先生も「静かにしなさい」と言っても静かにならないので「黙れ」と言う言葉を使う。「どうも」は色んなところで使えるので、2カ月も経つと普通に使っている。15時半からの教室では系統だった教え方をしている。初め週3回教えてもらい3カ月たつと自立しなさいと言われる。その後は教科フォローというのがあり、本人の状況に応じて教えている。中国では56民族あるので学校教育は北京語を使うことになっている。

学校で授業通訳をしている子供は中国人の場合10人程。中央区は特に中国人が多く、生徒は一人になることはなく、孤独ではない。授業以外のサポートとしては携帯番号を教え、何かあれば連絡するように言っている。結構電話はかかってくる。在留許可だけで子供を中国から呼び寄せ、これから永住を考えている家庭は、中国語しか話せない両親も多いのでそのような家庭のサポートもしている。そのような家庭では日本では忘れられた家庭の温かさを感じることもある。家族5人が狭いところで仲良く喧嘩しながら暮らしている。塾へ行く余裕はなく豊かな生活ではないが、笑顔が非常に多いことに教えられることが多い。仲良くなった子供からは病院に連れて行ってと頼まれる。彼らは中国から子供を呼び寄せていることから日本に住んで行こうという意思が強い。まじめで一生懸命働き、友達とも仲良くし、困った時は中国人同士助け合っているの温かいものを感じる。

授業通訳は始めてから1年程度であるが、その間に感じたことは、外国人の多さである。兵庫県や神戸市の教育委員会は実態をよく見て組織的にサポートしている。サポート組織に自分が関与出来ることがラッキーと思っている。兵庫県で日本語の指導が必要な子供は739人、学校は248校にわかれており、サポーターがついている。今の日本は多くの外国人がやってくる一方で、高齢化が進み人口は今後どんどん減少していく。15年後には人口ピラミッドの底辺がやせ細っていく。若い人二人が年寄一人を支える時代が来る前に、外国人を暖かい心で受け入れて、日本を更に魅力ある国にするための必要性を今の仕事を通じて強く感じている。例えばアメリカでは日本のような暖かい受け入れはされていないと思う。外国から来た子供たちが、将来日本の発展の力になってもらえる事を考えて、授業通訳の仕事をしている。大人には国境があるが子供たちを見ていると国境は感じない。

#### **5. なかちゃんコーナー：東北被災地訪問**

今日は原発事故の影響について、9月5日に福島県庁の方からお聞きしたことを紹介します。想定外の重大事故が発生し、避難指示を出したがその指示内容が刻々と変わり、受け手がその内容をキャッチ出来ず右往左往し大混乱を起こした。訓練はしょっちゅうやっていたが、受け手が動き回することは想定していなかった。避難所から仮設に移る際、住んでいる福島県の浜側は気候が温暖であるため住みやすいが、避難先が内陸側の場合は寒く行きたがらないとのこと。また帰ってくる事を考えると遠くに行きたくないの、仮設の入居場所が限定されてくる。このため人気があるのはいわき市であった。将来元の場所に戻るかどうかについては、3世代の家族が同居している家庭が多い中では、世代間で考えが異なり、若い子供のいる世代は帰りたくないと言い、お年寄りは帰って先祖から受け継いだ家を守りたいと思うので、家族間の分断が起きている。自然災害では起きないことが起こっている。除染については校庭のグラウンドの表面を何センチかはつり、新しい土で覆えば線量はかなり低減する。はつった土は校庭の片隅に埋めているが、いずれ町内の仮置き場に移す必要があるが、その場所について町民の理解がなかなか得られないのが現状である。これも原発事故の特異性で本当に大変だということを実感した。阪神大震災の経験では1年半も経つと少し先が見えてくるが、いまだに先が見えてこない。

#### **6. あこちゃんの地域瓦版**

「おかんアート展 2012年まもる編」が10月6(土)、7日(日)に神戸元町商店街の海文堂書店2階

ギャラリーで11時～18時30分に開催されます。アート展の他、手作り教室が11時30分～17時30分に開かれます。アクリルたわし作り、おしぼりタオルで犬を作っちゃおう教室、折り紙で作る立体仕掛けおもちゃ教室、ラメ入りしじみストラップづくり教室、牛乳パックと古切手を使った小箱教室他、多くの教室があります。またおかんアート展では、南相馬の被災者が仮設で作った作品も展示されます。10月8日（祝日）は14時～15時、エコシンガーの石田裕之コンサートが森林植物園で開催されます。

#### **7. 来月のゲスト**

来月は我々の同級生が行った兵庫県縦断ウォークについて話を伺います。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：[yuukarinikanpai@gmail.com](mailto:yuukarinikanpai@gmail.com)